

令和元年度 病虫害発生予察情報

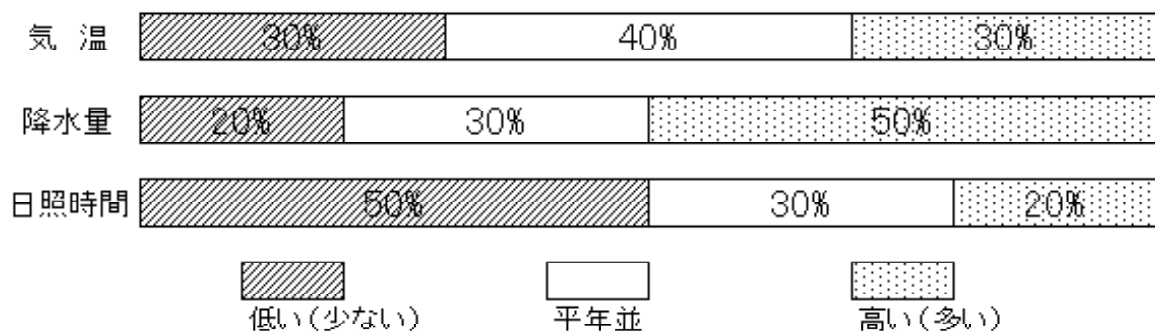
発生予報第4号（7月）

令和元年7月1日
島根県

予報の概要

区分	農作物名	病虫害名	予想発生量		
普通作物	イネ	葉いもち	平年並～やや多い		
		紋枯病	平年並		
		縞葉枯病	平年並～やや多い		
		黄化萎縮病	平年並～やや多い		
		ヒメトビウンカ	多い		
		ニカメイチュウ	平年並		
		ツマグロヨコバイ	平年並		
		セジロウンカ	平年並		
		トビイロウンカ	平年並		
		コブノメイガ	平年並		
		斑点米カメムシ類	平年並		
		果樹	ナシ	黒斑病	平年並～やや多い
				黒星病	少ない～やや少ない
シンクイムシ類	平年並				
ハマキムシ類	平年並				
ハダニ類	平年並				
アブラムシ類	少ない				
カキ	円星落葉病			平年並～やや多い	
果樹全般		カキミガ	平年並		
		カメムシ類	平年並		

中国地方1か月予報(6月29日～7月28日・広島地方气象台6月27日発表)
<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



A. 普通作物

1) イネ

(1) 葉いもち

予報内容

発生地方

県内全域

発生時期

やや遅い

発生量

平年並～やや多い

予報の根拠

① 6月上旬に実施した置き苗の調査（1294ほ場対象）での発生ほ場率は0%（平年0.5%）であった。

- ② 6月下旬の巡回調査（70ほ場）では発生を認めていない（平年の発生ほ場率1.0%、発病株率0.3%）。
- ③ 常習発生地では育苗箱施薬の実施率が高い。
- ④ 向こう一か月の気象は本病の発生に助長的である。
- (2) 紋枯病
- 予報内容
- | | |
|------|------|
| 発生地方 | 県内全域 |
| 発生時期 | 平年並 |
| 発生量 | 平年並 |
- 予報の根拠
- ① 6月下旬の巡回調査（70ほ場）では発生を認めていない（平年の発生ほ場率0.9%、発病株率0.0%）。
- ② 常習発生地の一部では育苗箱施薬が行われている。
- ③ 向こう一か月の気象は本病の発生にやや助長的である。
- (3) 縞葉枯病
- 予報内容
- | | |
|------|----------|
| 発生地方 | 県内全域 |
| 発生量 | 平年並～やや多い |
- 予報の根拠
- ① 媒介虫のヒメトビウンカの発生量が多いと予想される。
- ② 近年の保毒虫率は低い。
- ③ 4月中旬の越冬世代成幼虫のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は0%（過去10年の平均1.5%）と低い。6月中旬の成虫の保毒虫率は0%と低い。
- (4) 黄化萎縮病
- 予報内容
- | | |
|------|----------|
| 発生地方 | 常習発生地 |
| 発生量 | 平年並～やや多い |
- 予報の根拠
- ① 近年、本病の発生は少ない。
- ② 向こう一か月の気象は本病の発生にやや助長的である。
- (5) ヒメトビウンカ
- 予報内容
- | | |
|------|------|
| 発生地方 | 県内全域 |
| 発生量 | 多い |
- 予報の根拠
- ① 6月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は43.5%（平年27.5%）、捕獲数は4.2頭/50株（平年0.8頭）で発生量は平年と比べて多い。
- ② 6月第4半旬までに予察灯（出雲市、益田市、隠岐の島町）への誘殺は認められないが、6月第5半旬までにネットトラップ（出雲市）において6頭捕獲され、飛来量は平年に比べてやや多い。
- ③ 向こう一か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。
- (6) ニカメイチュウ（第1世代）
- 予報内容
- | | |
|------|------|
| 発生地方 | 県内全域 |
| 発生時期 | 平年並 |
| 発生量 | 平年並 |
- 予報の根拠
- ① 6月下旬の巡回調査では、被害株率は0%（平年0.18%）で発生量は平年に比べてやや少ない。
- ② 6月第4半旬までの予察灯、フェロモントラップにおける誘殺数は平年並みである。
- ③ 向こう一か月の気象は本種の発生を助長する要因とはならない。
- (7) ツマグロヨコバイ
- 予報内容
- | | |
|------|------|
| 発生地方 | 県内全域 |
| 発生量 | 平年並 |
- 予報の根拠
- ① 6月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は30.4%（平年34.9%）、捕獲数は2.2頭/50株（平年2.5頭）で発生量は平年並みである。
- ③ 向こう一か月の気象は本種の発生を助長する要因とはならない。

(8) セジロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

- ① 6月第4半旬までに予察灯（出雲市、益田市、隠岐の島町）、粘着誘殺灯（出雲市）、ネットトラップ（出雲市）で誘殺されていない。
- ② 6月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は21.7%（平年36.9%）、捕獲数は1.6頭/50株（平年3.7頭）で発生量は平年並みである。
- ③ 向こう一か月の気象は本種の発生を助長する要因とはならない。

(9) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

- ① 6月第4半旬までに予察灯（出雲市、益田市、隠岐の島町）、粘着誘殺灯（出雲市）、ネットトラップ（出雲市）で誘殺されていない。
- ② 6月下旬の巡回調査では、ほ場での発生は認められない。
- ③ 向こう一か月の気象は本種の発生を助長する要因とはならない。

(10) コブノメイガ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

- ① 6月第4半旬までに予察灯（出雲市、益田市、隠岐の島町）、粘着誘殺灯（出雲市）、ネットトラップ（出雲市）で誘殺されていない。
- ② 6月下旬の巡回調査では、ほ場での発生は認められない。
- ③ 向こう一か月の気象は本種の発生を助長する要因とはならない。

(11) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

- ① 6月下旬のほ場周辺雑草地でのすくい取り調査では斑点米カメムシ類合計で発生ほ場率は55.6%（平年66.2%）で平年に比べてやや少なく、捕獲頭数は7.1頭/20回振り（平年8.2頭）と発生量は平年並みである。主要種はアカスジカスミカメである。
- ② 向こう一か月の気象は本種の発生を助長する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 ナシ（二十世紀）栽培地帯

発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、発病葉率は6.7%（平年6.5%）であり、発生量は平年並みである。
- ② 向こう一か月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 少ない～やや少ない

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、発病葉率は0.1%（平年1.3%）であり、発生量は平年と比べて少ない。
- ② 向こう一か月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ①フェロモントラップ（安来市、出雲市）でのナシヒメシンクイ雄成虫の誘殺時期は平年並み、誘殺数は平年並みである。
- ②向こう一か月の気象は本種の発生を助長する要因とはならない。

(4) ハマキムシ類

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ①県予察ほ場（出雲市）のフェロモントラップにおけるハマキムシ類雄成虫の誘殺時期は平年並み、誘殺数は平年並みである。
- ②向こう一か月の気象は本種の発生を助長する要因とはならない。

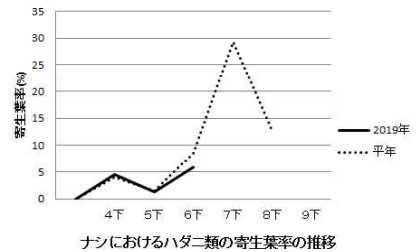
(5) ハダニ類

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ①6月下旬の発生量は寄生葉率5.8%（平年8.6%）、寄生虫数11.3頭/50葉（平年18.8頭）と平年並みである（右図参照）。
- ②向こう一か月の気象は本種の発生を助長する要因とはならない。



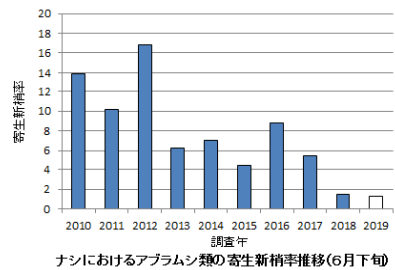
(6) アブラムシ類

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 少ない

予報の根拠

- ①6月下旬の寄生新梢率1.3%（平年7.8%）、寄生度0.3（平年3.2）と平年に比べて少ない（右図参照）。
- ②黄色水盤への有翅虫飛来数は平年並みである。
- ③向こう一か月の気象は本種の発生を助長する要因とはならない。



2) カキ

(1) 円星落葉病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量（感染量） 平年並～やや多い

予報の根拠

- ①前年の発生は平年並みで、伝染源量は平年並みと考えられる。
- ②向こう一か月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(2) カキミガ（第1世代）

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ①前年の第2世代幼虫による被害は平年並みであり、越冬量は平年並みと考えられる。
- ②向こう一か月の気象は本種の発生を助長する要因とはならない。

3) 果樹全般

(1) カメムシ類

予報内容

発生地方

県内全域（特にナシ無袋、カキ栽培地帯）

発生量

平年並

予報の根拠

- ① 6月第6半旬までの予察灯でのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ3種の合計誘殺数は142頭（平年値137.9頭）で平年並みである。
- ② 向こう一か月の気象は本種の発生を助長する要因とはならない。

農薬の安全使用の徹底を！

- ・ 農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数）を遵守する。
- ・ 防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
- ・ 農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
- ・ 水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・ 有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・ 散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・ 病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

○ 病害虫防除所のホームページでは発生予察情報の他、各種情報を掲載しています。

島根県病害虫防除所

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ

<http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>